

CT_CopyTradeEA

Sender v2.5 / Receiver v8.1 Magic分離版

MT4コピー補助ツール 利用マニュアル

複数口座へのコピー取引を、もっと安全に、もっとスマートに。

MT4コピー補助ツール

残ロット同期型で安全重視

コピー元の現在合計ロットに追従

コピー元 (Sender口座) | 現在合計ロット 3.25 Lots | 残ロットを計算 | 安全重視の同期ロジック

リアルタイム同期
エントリー/決済/部分決済を高精度にコピー

受信先① (Receiver口座) | 現在合計ロット 1.63 Lots

受信先② (Receiver口座) | 現在合計ロット 0.98 Lots

受信先③ (Receiver口座) | 現在合計ロット 0.65 Lots

- 部分決済対応: 部分決済も正確にコピー
- 複数MT4対応: 複数のMT4に同時対応
- 通貨ペア変換: 異なる通貨ペアにも柔軟対応
- ロット倍率設定: 口座ごとに倍率を自由設定
- Sender v2.3 / Receiver v7.9
- 安全設計: 安定動作を最優先
- 誤コピー防止機能: 各種フィルタでリスクを低減
- 高精度・低遅延: 高速な同期でスリッページを最小化
- 詳細ログ出力: すべての動作を記録・確認可能
- 安心のサポート体制: 導入から運用までしっかりサポート

GJOG.JP / FX / MT4 / COPY TOOL / FREE DISTRIBUTION

このマニュアルは、MT4間で成行ポジションをコピーするための補助ツール「CT_CopyTradeEA」の基本設定、運用ルール、注意点をまとめたものです。

重要: このツールは投資助言、利益保証、損失回避を目的としたものではありません。設定ミス、通信遅延、約定差、スリッページ、ブローカー仕様差、VPS環境などにより損失が発生する可能性があります。必ずデモ口座または最小ロットで検証してください。

目次

1. このツールの概要
2. 最新版の構成
3. 大事な仕様
4. 導入前の準備
5. ファイルの設置方法
6. Sender側の設定
7. Receiver側の設定
8. 通貨ペア名変換
9. 複数MT4・複数コピーグループ運用
10. 動作確認手順
11. 受信側で裁量取引をする場合
12. トラブルシューティング
13. 運用上の注意と免責
14. 更新履歴

1. このツールの概要

CT_CopyTradeEAは、発信側MT4の成行ポジション情報を共通ファイルに書き出し、受信側MT4がその情報を読み取って注文・決済・残ロット調整を行うコピー補助ツールです。

複数のMT4を同じVPS上で動かし、1つの発信側MT4から複数の受信側MT4へポジション情報を渡す用途を想定しています。

発信側MT4の成行ポジションを受信側MT4へコピーします。

受信側ごとにロット倍率を設定できます。

部分決済後の残ロット同期に対応します。

GOLD_USD -> XAUUSD などの銘柄名変換に対応します。

Receiver v8.1では、受信側の裁量注文をMagicNumberで分離できます。

このツールがコピーするのは、約定済みの成行ポジションです。buy limit / sell limit / buy stop / sell stop などの未約定注文はコピー対象外です。



2. 最新版の構成

発信側EA	CT_OriginalSender_JP_v2_5_DIRECT_END_STATE_MT4	発信側MT4にセットし、成行ポジション状態をCT_CopyTrade_state.csvへ書き出します。
受信側EA	CT_OriginalReceiver_Multi_JP_v8_1_MAGIC_ISOLATION_MT4	受信側MT4にセットし、Stateファイルを読み取ってコピー注文を管理します。
同期方式	Stateファイル方式 / ENDチェック付き / 残ロット同期型	読み込み途中の空ファイル誤認を避けるため、END行がある完成済みStateのみ処理します。
裁量分離	MAGIC ISOLATION	Receiver側で手動注文や他EA注文を同期対象外にできます。

フォルダ構成の例

```
ML4/Experts/CT_OriginalSender_JP_v2_5_DIRECT_END_STATE_MT4.ex4
ML4/Experts/CT_OriginalReceiver_Multi_JP_v8_1_MAGIC_ISOLATION_MT4.ex4
Common/Files/CT_CopyTrade_state.csv
Common/Files/CT_symbol_map.csv
```

配布時はコンパイル済みEX4、または環境に応じてMQ4をMetaEditorでコンパイルして利用します。

3. 大事な仕様

3-1. 指値・逆指値はコピー対象外

発信側にbuy limitやsell limitが置かれているだけの状態ではコピーされません。指値・逆指値が約定して成行ポジションになった時点でコピー対象になります。

3-2. 残ロット同期型

最新版は、コピー元のチケットを完全に再現する考え方ではなく、発信側の現在ロットに対して受信側のコピーEA注文の残ロットを合わせる考え方です。

たとえば、発信側のGOLD

BUYが0.03ロットから0.02ロットへ部分決済された場合、受信側もコピーEAが管理しているGOLD BUYを0.02ロット相当へ寄せます。

残ロット同期型の仕組み

コピー元アカウントの「現在合計ロット」に合わせて、受信側アカウントのポジションを自動で調整します



3-3. Receiver側の裁量注文分離

Receiver v8.1では、MagicNumberが一致するコピーEA注文だけを同期・決済・補正対象にできます。これにより、受信側で手動注文を入れてもコピーEAが触らない運用が可能です。

4. 導入前の準備

発信側MT4と受信側MT4を用意します。

同じWindowsユーザー上のMT4でCommon Filesを共有できる状態にします。

MT4の自動売買をONにします。

各EAのパラメータを保存して、どの口座が何倍コピーか分かるようにします。

本番前にデモ口座、または最小ロットで動作確認します。

Common Filesの場所

このツールは、MT4共通フォルダを使って発信側と受信側でStateファイルを共有します。一般的には以下の場所です。

```
%APPDATA% / MetaQuotes / Terminal / Common / Files
```

MT4の「ファイル」->「データフォルダを開く」から各ターミナルフォルダを開けますが、Common Filesは全MT4共通の場所です。

Common Filesは同じWindowsユーザー内のMT4で共通です。複数のSenderが同じCT_CopyTrade_state.csvを書き換えると、Receiverが混乱して勝手な決済・再エントリーの原因になります。

5. ファイルの設置方法

5-1. EAファイル

発信側MT4にはSender、受信側MT4にはReceiverを設置します。

発信側MT4	CT_OriginalSender_JP_v2_5_DIRECT_END_STATE_MT4	MQL4 / Experts
受信側MT4	CT_OriginalReceiver_Multi_JP_v8_1_MAGIC_ISOLATION_MT4	MQL4 / Experts

5-2. 通貨ペア変換CSV

ブローカーによって銘柄名が違う場合は、Common

FilesにCT_symbol_map.csvを置きます。不要な場合でも、同名マップとして置いておくと確認が楽です。

```
GOLD_USD=GOLD_USD  
XAUUSD=XAUUSD  
EURUSD=EURUSD
```

6. Sender側の設定

Senderは、発信側MT4の成行ポジション状態をStateファイルへ書き出す役割です。コピー元MT4の全ポジションを送りたい場合は、マジックフィルターをOFFにします。

共通フォルダを使う	true	Common Filesを使用します。
書き込みStateファイル名	CT_CopyTrade_state.csv	Receiver側の現在stateファイル名と完全一致させます。
更新間隔ミリ秒	250前後	Stateファイルを書き出す間隔です。短すぎると環境によって負荷が上がります。
起動時の既存ポジを新規送信する	false推奨	起動時の既存ポジを新規扱いにするかどうかです。通常はfalseで安全寄り。
成行ポジションのみ送信	true	指値・逆指値など未約定注文は送信しません。
マジックフィルターで絞る	false	falseなら発信側MT4の成行ポジションを全部送信します。特定EAだけ送りたい場合のみtrue。
対象マジックナンバー	0	マジックフィルターON時に使います。OFFなら基本的に影響しません。
チャートに状態表示	true	Senderの状態をチャート左上に表示します。
TOTAL行も出力	true	Receiverが合計ロット同期に使う情報を出力します。
エキスパートログ出力	true	トラブル時の確認に使います。

コピー元MT4の成行ポジションを全部送りたい場合は「マジックフィルターで絞る = false」でOKです。コピー元側の裁量注文もコピーされます。

Senderの画面で確認すること

Stateファイル名がReceiver側と一致していること。

チャート表示でState open failedなどが連続していないこと。

Common FilesにCT_CopyTrade_state.csvが作成され、最後にEND行があること。

7. Receiver側の設定

ReceiverはStateファイルを読み取り、受信側MT4でコピー注文・決済・残ロット調整を行います。v8.1では、受信側の裁量注文をMagicNumberで完全分離できます。

共通フォルダを使う	true	Senderと同じCommon Filesを読みます。
現在stateファイル名	CT_CopyTrade_state.csv	Senderの書き込みStateファイル名と完全一致させます。
対応表ファイルで現在処理	true	通貨ペア名変換CSVを使います。
コピー元ロットに合わせて補正	true	発信側の残ロットに受信側コピー注文を合わせます。
受信ロット名を自動部分決済	true	過剰ロットの一部分決済に使います。
コピー元消失/受信側全決済	true	コピー元がなくなった時にコピーEA注文を閉じます。
受信側ロットに書き込み	true	受信側の残ロット情報を内部管理に使います。
現在地ファイル不明	true	State読込が不明な時に安全側へ寄せます。
rawタグ注文はコピー完全無視	true	旧raw方式の影響を避けます。
状態ファイルEND行を必ず確認する	true	END行がない未完成Stateは処理しません。
コピー元ゼロ時の連続確認回数	3以上	空Stateを1回読んだだけでは全決済しない安全ガードです。
前回ポジションあり時の単発空Stateを無視	true	読み込み途中の空Stateを誤認しにくくします。
裁量注文を完全無視	true	MagicNumberが一致しない手動注文・他EA注文を管理対象外にします。
不正ロットを自動で追加	true	不足分があればコピーEA注文を追加します。
過剰注文を無視せず正しく追加しない	true	過剰ロットの扱いを安全寄りにします。
TOTAL同期では同一通貨同方向を全て対象	false	裁量注文を合算しないため必ずfalse推奨。
MagicNumber	任意の専用番号	Receiverが出すコピー注文に付ける番号。例: 20260429
このEAの注文だけ決済	true	コピーEAが出した注文だけを決済対象にします。
SLTPコピー	false推奨	コピー元と受信側で建値差が出るため、まずはfalseで検証推奨。
スリッページ	80前後	GOLDなどは広めにしないと約定失敗しやすい場合があります。
最大スプレッドポイント	80前後	広すぎる相場での新規発注を抑制します。
エラー時に再試行	true	一時的な発注失敗に再試行します。

Receiverで裁量注文を分離する必須設定

```
裁量注文を完全無視 = true
このEAの注文だけ決済 = true
TOTAL同期では同一通貨同方向を全て対象 = false
```

この3つが重要です。これにより、Receiverが同期・補正・全決済の対象にするのは、指定MagicNumberで出したコピーEA注文だけになります。

TOTAL同期では同一通貨同方向を全て対象 = true
にすると、同じ銘柄・同じ方向の裁量注文まで合算される可能性があります。裁量分離したい場合はfalse推奨です。

ロット倍率の考え方

GOLD BUY 0.01	1.0	GOLD BUY 0.01
GOLD BUY 0.01	2.0	GOLD BUY 0.02
GOLD BUY 0.03から0.02へ部分決済	1.0	受信側コピー注文も0.02相当へ調整
コピー元全決済	1.0 / 2.0	受信側のコピーEA注文も決済。ただし裁量注文は残ります。

8. 通貨ペア名変換

発信側と受信側で銘柄名が違う場合は、CT_symbol_map.csvで変換します。

```
# 例
GOLD_USD=XAUUSD
GOLD_U=GOLD_USD
EURUSD=EURUSD
USDJPY=USDJPY
```

左側が発信側の銘柄名、右側が受信側の銘柄名です。受信側ブローカーの銘柄名は、MT4の気配値表示で「すべて表示」をして確認してください。

OrderSend error 4106 が出る場合は、受信側MT4にその銘柄が存在しない、または気配値表示で非表示の可能性があります。気配値表示で「すべて表示」を行ってください。

9. 複数MT4・複数コピーグループ運用

1つのSenderから複数Receiverへコピーする運用は可能です。ただし、複数のSenderを同じCommon Files上で同時運用する場合は、Stateファイル名を分ける必要があります。

1つのSender -> 複数Receiver

```
Sender: CT_CopyTrade_state.csv
Receiver 1: CT_CopyTrade_state.csv
Receiver 2: CT_CopyTrade_state.csv
Receiver 3: CT_CopyTrade_state.csv
```

この構成はOKです。全Receiverが同じStateファイルを読むだけなので問題ありません。

複数Senderを同時に使う場合

```
本番グループ Sender: CT_CopyTrade_state_live.csv
本番グループ Receiver: CT_CopyTrade_state_live.csv

デモグループ Sender: CT_CopyTrade_state_demo.csv
デモグループ Receiver: CT_CopyTrade_state_demo.csv
```

複数Senderが同じCT_CopyTrade_state.csvを書き込むと、Receiverが別口座のStateや空Stateを読み、勝手な決済・再エントリーの原因になります。

古いSenderを残さない

テスト中に旧バージョンSenderを別MT4に付けたままにすると、Common FilesのStateファイルを書き換える場合があります。運用前に発信側EAが1グループ1つだけになっているか確認してください。

10. 動作確認手順

10-1. クリーンテスト前に削除してよいファイル

テスト前にCommon Filesを整理すると、旧バージョンの残骸による誤動作を避けやすくなります。

```
削除候補:
CT_CopyTrade_raw
CT_CopyTrade_raw.txt
CT_CopyTrade_state.csv.tmp
CT_processed_****
CT_ticket_map_****
```

```
残す/再作成するもの:
CT_CopyTrade_state.csv
CT_symbol_map.csv
```

10-2. 起動順

Receiver v8.1を受信側MT4にセットします。

Sender v2.5を発信側MT4にセットします。

Common FilesにCT_CopyTrade_state.csvが作成されることを確認します。

コピー元でGOLD 0.01など最小ロットの成行注文を1本だけ入れます。

受信側に倍率通り1本だけ入ることを確認します。

2-3分放置して増殖・連打・勝手な決済がないことを確認します。

コピー元を決済し、受信側のコピーEA注文も決済されることを確認します。

確認のためにCT_CopyTrade_state.csvをメモ帳で開く場合、確認後は閉じてください。開きっぱなしにすると環境によっては読み書きの邪魔になる場合があります。

11. 受信側で裁量取引をする場合

Receiver v8.1では、受信側で裁量注文を入れてもコピーEAの管理対象から外せません。

コピーEAが出した注文	Receiverで指定したMagic Number	同期・残ロット補正・決済の対象
手動裁量注文	0	裁量注文を完全無視=trueなら対象外
他EAの注文	他EAのMagicNumber	裁量注文を完全無視=trueなら対象外

注意点

コピー元が全決済されても、受信側の裁量注文は残ります。

受信側の裁量注文は自分で管理してください。

口座全体の証拠金維持率には、コピーEA注文と裁量注文の両方が影響します。

裁量注文を分離しても、同じ口座である以上、ロスカットリスクは共有されます。

裁量注文を分離できるのは、あくまでReceiverの同期・決済対象から外すという意味です。証拠金、含み損、ロスカットは同じ口座内で合算されます。

12. トラブルシューティング

コピーされない	指値注文のまま	約定済み成行ポジションが確認します。buy limit / sell limitはコピーされません。
END OK false	完成済みStateを読めていない	Stateファイル名が一致しているか、END行があるか確認します。
SafeSync waiting fresh state	新しいState待ち	成行ポジションがない状態なら待機で正常です。
勝手に決済して再エントリー	複数Senderが同じStateを書いている/旧Senderが残っている	Senderは1グループ1つにし、複数グループはStateファイル名を分けます。
OrderSend error 4106	銘柄名不一致/非表示	CT_symbol_map.csvと気配値表示「すべて表示」を確認します。
ロットが合わない	倍率設定/最小ロット/ブローカー制限	エントリー倍率、クローズ倍率、最小ロット、ロットステップを確認します。
裁量注文が触られる	裁量分離設定が不十分	裁量注文を完全無視=true、このEAの注文だけ決済=true、TOTAL同期では同一通貨同方向を全て対象=falseを確認します。
State open failed	ファイルを開きっぱなし/権限/一時的なロック	メモ帳を閉じる、MT4再起動、Common Filesの場所を確認します。

13. 運用上の注意と免責

本ツールは無料配布のコピー補助ツールです。利益を保証するものではなく、設定ミスや環境差により損失が発生する可能性があります。利用は自己責任でお願いします。

運用ルール

- 最初は必ずデモ口座、または0.01ロットなど最小ロットで検証してください。
- VPS再起動後は、Sender/Receiverの起動状態とStateファイル更新を確認してください。
- 複数Sender運用時はStateファイル名を必ず分けてください。
- メモ帳でStateファイルを開いたまま運用しないでください。
- ブローカーの銘柄名、最小ロット、スプレッド、約定力により結果は変わります。
- コピー元と受信側では約定時間差、価格差、スリッページが出ます。
- 受信側で裁量注文をする場合、証拠金維持率は口座全体で管理してください。

サポートについて

配布物は現状渡しです。環境によって動作が変わるため、設定代行、個別検証、トラブル対応は必要に応じて有料サポート扱いになる場合があります。

不具合確認時は、発信側・受信側のスクリーンショット、Common FilesのStateファイル内容、Expertsログ、パラメータ画面をセットで確認してください。

14. 更新履歴

Sender v2.5	Stateファイルを直接書き込み、最後にEND行を出力する方式へ調整。tmpファイル残り問題を回避。
Receiver v8.0	ENDチェック、空State誤認防止、Safe State Guardを追加。
Receiver v8.1	MAGIC ISOLATIONを追加。受信側の裁量注文・他EA注文をコピーEA管理対象から分離。

以上